



酉年にはばたけ朱雀（撮影・石原裕之）

詣 初

崇敬会会員の昇殿参拝

平成5年1月3日

午前10時（第1回）
午前11時（第2回）

1月3日の午前10時と11時の2回、崇敬会会員とその家族にかぎり、昇殿参拝の式をおこない、神社から神酒と特別な御札が授与されます。

崇敬会では新春記帳所を設けますので、ご記帳のうえ、御供物をお受け取りください。なお境内には、甘酒進上の席も用意いたします。多数ご参拝ください。

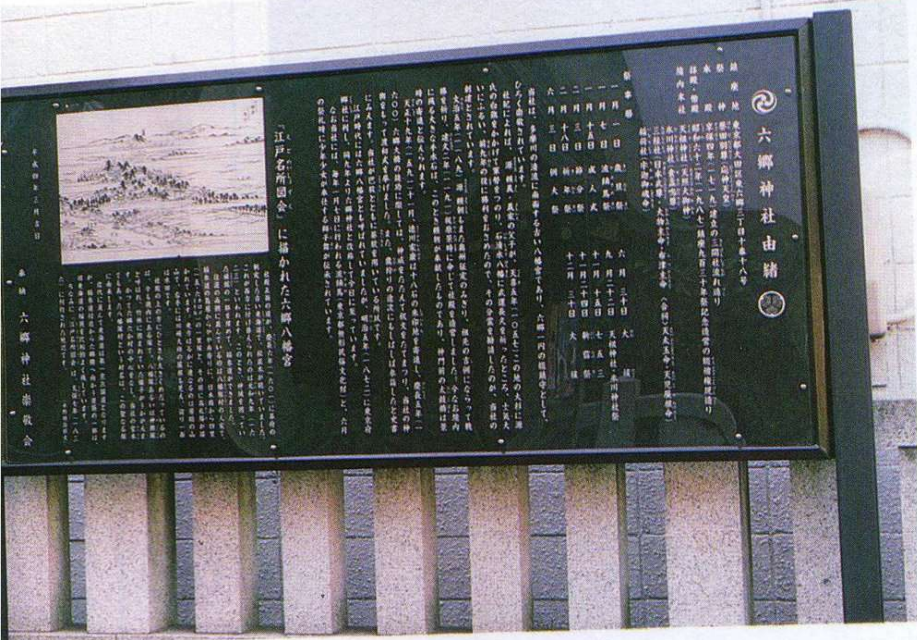
神社所蔵の四神について

平成5年の干支は癸酉、トリ年にはばたけと祈り、神社の宝物である四神の朱雀像を掲げました。四神は四方の神、すなわち東の青竜、西の白虎、南の朱雀、北の玄武をいいます。六郷神社の四神については、天保三年（一八三二）刊行の『東都歳事記』にも記され、鎮座九百三十年祭記念に、彩色も新たによみがえった芸術性の高い彫刻です。

5月30日（除幕式）

奉納・六郷神社由緒揭示板

崇敬会は、平成4年度の事業の一環として、六郷神社由緒揭示板を奉納しました。脇参道入口に建立した横2.4m、縦1.1mの超耐久性銘板で、透明なアクリル保護板が付いています。撰文は平野順治氏。工事は有限会社ダイヤプレートが請け負いました。



7日 祭礼



宇佐神宮参拝旅行

9月10〜12日

宿願であった宇佐神宮への正式参拝を軸とする北九州の旅には、24名が参加。太宰府天満宮、宗像大社の参拝、吉野ヶ里遺跡見学と、有意義な秋晴れの3日間でした。



左と右と方位

— っいたち早朝まいの講話 —

喜 多 良 雄

東の力士は左から土俵に上がる

『広辞苑』や『広辞林』などの辞典によると、左とは「南に向かって東の方向」とあって、北を上にした地図を見慣れているわれわれは、少々考えてしまう。

しかし、テレビで大相撲を見てみると、東の力士が左（東の守護神・青竜を示す青房下）から登場してくるので、われわれが「南を向いて」いることに気づく。これは、むかし天子が南に向かって政治を行ったので、伝統的な辞典は、「南向き」を前提としており、テレビでも貴賓席である正面から「南向き」で観戦するようにになっている。

ところで、むかしから南面する天子の左（北面するわれわれから見ると右側）に位置する左大臣の方が、右大臣より高位にあるとされており、神棚でも、中央に天照皇大神宮の御札、向かって右側に氏神の六郷神社の御札、左側にその他の神社の御札を祀るようにならされている。狛犬の阿吽二形や山門の仁王像も、そのように並ぶのが原則らしく、仏教の三尊像

● 11月3日 (創立記念日)

第3回献木式と添釜そえがま(野点のだて)

昨年につづいて「しだれ桜」を献木。
午前11時から大日本茶道協会のみなさんの奉仕で、神楽殿前に設けられた茶席は、七五三の親子づれにも大変好評でした。



● 6月6日



六郷河原野草観察会

● 9月27日

地元の「野草の宝庫」をさぐる観察会は、晴天に恵まれ約40名が参加。大田区自然を守る会の簡典久、古屋のり子両氏の指導で認識を新たにしました。



も同様である。

裁判や外交では なぜか右が上位

ところがなぜか、裁判制度や外交儀礼では、以上のような伝統とは反対に、右(向かって左)を上位とする尚右主義・右尊説を原則にしているようである。三人の裁判官で構成される合議体では、裁判長の右陪席(向かって左)の裁判官の方が上位で、左陪席がその次の地位にある。それと同じで、右側(向かって左)に、民事法廷では原告、刑事法廷では検察官、調停室では経験のより深い調停委員が、それぞれ位置している。外交の場合でも、来賓は向かって左に位置している。なぜこうなったのかはわからない。法的な根拠もないようである。

雛祭りいづれを 右にかざるのか

雛祭りでも、かつては「雛祭りいづれを右に祀るなる」と迷ったものの、上位とされる親王が、向かって左に祀られるのが、現在の確定的な慣行で、雛祭りに関するかぎり、もっともな根拠がいくつもある。

ところで前にも述べたように、北を上(したがって東を右に)した地図を見慣れたわれわれにとって、京急電鉄などの切符売場に掲示されている立派な地図が、構内の地図とは逆に左側が東になっているのは、不可解である。

崇敬会第2期役員決まる

崇敬会は平成元年11月3日発足以来、多彩な活動を続けてきましたが、このほど役員任期満了に伴い、総会において会則による所定の手続きを行い、次のとおり役員を選出して、一層の発展を期することになりました。会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

顧問		参与		会長		副会長		常任理事		理事		監事	
唐木	嵯峨三	山口	四郎	梅沢	喜代造	石渡	豊吉	森田	賢治	平野	順治	喜多	絹子
鈴木	明	鈴木	明	梅沢	喜代造	石渡	豊吉	森田	賢治	平野	順治	喜多	絹子
中谷	亀	橋本	幸雄	中村	幸雄	橋本	幸雄	中村	幸雄	橋本	幸雄	中村	幸雄
平野	欽	平野	欽	平野	欽	平野	欽	平野	欽	平野	欽	平野	欽
平林	キヌエ	平林	キヌエ	平林	キヌエ	平林	キヌエ	平林	キヌエ	平林	キヌエ	平林	キヌエ
本多	昭子	本多	昭子	本多	昭子	本多	昭子	本多	昭子	本多	昭子	本多	昭子
前田	昭子	前田	昭子	前田	昭子	前田	昭子	前田	昭子	前田	昭子	前田	昭子
増淵	昭子	増淵	昭子	増淵	昭子	増淵	昭子	増淵	昭子	増淵	昭子	増淵	昭子
宮崎	繁春	宮崎	繁春	宮崎	繁春	宮崎	繁春	宮崎	繁春	宮崎	繁春	宮崎	繁春
湯浅	久美子	湯浅	久美子	湯浅	久美子	湯浅	久美子	湯浅	久美子	湯浅	久美子	湯浅	久美子
吉崎	武守	吉崎	武守	吉崎	武守	吉崎	武守	吉崎	武守	吉崎	武守	吉崎	武守
吉野	倫子	吉野	倫子	吉野	倫子	吉野	倫子	吉野	倫子	吉野	倫子	吉野	倫子
石原	篤	石原	篤	石原	篤	石原	篤	石原	篤	石原	篤	石原	篤
伊東	光治	伊東	光治	伊東	光治	伊東	光治	伊東	光治	伊東	光治	伊東	光治
井上	富子	井上	富子	井上	富子	井上	富子	井上	富子	井上	富子	井上	富子
今泉	洋子	今泉	洋子	今泉	洋子	今泉	洋子	今泉	洋子	今泉	洋子	今泉	洋子
岡田	真佳	岡田	真佳	岡田	真佳	岡田	真佳	岡田	真佳	岡田	真佳	岡田	真佳
小崎	公孝	小崎	公孝	小崎	公孝	小崎	公孝	小崎	公孝	小崎	公孝	小崎	公孝
加藤	喜市	加藤	喜市	加藤	喜市	加藤	喜市	加藤	喜市	加藤	喜市	加藤	喜市
金子	雅夫	金子	雅夫	金子	雅夫	金子	雅夫	金子	雅夫	金子	雅夫	金子	雅夫
金子	賢次	金子	賢次	金子	賢次	金子	賢次	金子	賢次	金子	賢次	金子	賢次
川田	桂太郎	川田	桂太郎	川田	桂太郎	川田	桂太郎	川田	桂太郎	川田	桂太郎	川田	桂太郎
川田	博之	川田	博之	川田	博之	川田	博之	川田	博之	川田	博之	川田	博之
小林	有子	小林	有子	小林	有子	小林	有子	小林	有子	小林	有子	小林	有子
塩沢	章	塩沢	章	塩沢	章	塩沢	章	塩沢	章	塩沢	章	塩沢	章
代田	茂	代田	茂	代田	茂	代田	茂	代田	茂	代田	茂	代田	茂
須山	温夫	須山	温夫	須山	温夫	須山	温夫	須山	温夫	須山	温夫	須山	温夫
徳永	真一	徳永	真一	徳永	真一	徳永	真一	徳永	真一	徳永	真一	徳永	真一
橋本	武雄	橋本	武雄	橋本	武雄	橋本	武雄	橋本	武雄	橋本	武雄	橋本	武雄
前嶋	唯七	前嶋	唯七	前嶋	唯七	前嶋	唯七	前嶋	唯七	前嶋	唯七	前嶋	唯七
三尾	富子	三尾	富子	三尾	富子	三尾	富子	三尾	富子	三尾	富子	三尾	富子
持田	博美	持田	博美	持田	博美	持田	博美	持田	博美	持田	博美	持田	博美
代田	秀雄	代田	秀雄	代田	秀雄	代田	秀雄	代田	秀雄	代田	秀雄	代田	秀雄
桑原	静	桑原	静	桑原	静	桑原	静	桑原	静	桑原	静	桑原	静

古式ゆかしい

こども流鏑馬

1月7日午後1時より

六郷神社の流鏑馬は、都指定の無形民俗文化財。馬に乗らない歩射で、こどもの開運、健康、出世を祈り、「八方にらみ」という独特の的を椿の弓で射ます。(雨天決行)

盛大に行われた

氏青15周年祝賀会

氏子青年会結成15周年記念の式典と祝賀会が、10月25日午後2時から神社で行われ、大いに盛り上がりしました。ますますの発展を祈ります。

清明の心を養う

ついで早朝まいり

11月から6月までは、午前7時から昇殿参拝。会員有志による10分程度の短い講話があり、とても好評です。多数ご参加くださいますように。

新入会員名簿

自平成4年6月1日
至平成4年11月30日

東三	海老沼みつ枝	仲四	田畑久雄
鈴木慶子	竹内隆男	鶴の木	
鈴木達也	西一	簡典久	
鈴木雅子	沼田啓宜	萩中	
南二	西三	齊藤利実	
石原篤	金輪雅夫	川崎市	
仲三	高橋裕枝	田中隆昭	
河原伸伍			

平成4年度の会費

未納の方へのお願い

平成4年度の会費(平成4年4月1日より同5年3月31日までの分)未納の方は、同封の振替用紙で、なるべく早くお納めください。

発行 六郷神社崇敬会

〒144大田区東六郷三十八

六郷神社社務所内

電話 〇三三七三一二八八九

振替 東京九一一三五五三

編集 平野順治